

執筆要領

25mm

①

②論文・報告題目（明朝体、太字、12ポイント）

③The Title of The Paper（太字、10.5ポイント）

論文 or 報告

⑤鉄骨□一郎*

鋼□構造**

論 文集***

⑥Ichiro TEKKOTSU

Kozo HAGANE

Bunshu RON

⑩

ABSTRACT The Symposium on the steel structure is planned by Japanese Society of Steel Construction. The objectives of the Symposium are to stimulate cooperation, current problems in development, design and construction of steel structures including composite structures. Participants wishing to present a paper are invited to submit a detailed abstract relating to one of the Symposium themes. Original practical examples and case studies will be particularly welcome. Additional information will be announced on JSSC and on the journal of scientific society concerned.

10mm

10mm

Keywords:鋼構造, 論文集, 刊行

Steel structure, journal, publication

⑱

21

1. はじめに（章・節・項の見出しはゴシック体）

この度、社団法人日本鋼構造協会において、年に一度、鋼構造関係の論文報告集を刊行し、併せてシンポジウムを開催することになりました。鋼構造に関わる研究者、技術者の情報交換の場としてご活用頂ければ幸甚に存じます。

論文及び報告は審査付きと致します。

執筆要領を熟読の上、原稿をご執筆下さい。

（各章の間は1行あける。）

25

2. 原稿用紙（データ投稿の場合は不要）

ご提出用の完成原稿は、一般のコピー用紙（上質紙）を用い、所定の余白を確保できるようにご執筆下さい

3. 執筆要領

35

①・一般のコピー用紙（上質紙）にレーザープリンター等によって、本執筆要領に従って「オフセット印刷用完成原稿」を作成する。（データ投稿の場合は不要）

・頁数は4頁、6頁、8頁の何れかとする。

40

*修士（工学） 鉄鋼大学大学院博士後期課程

工学研究科鉄鋼加工学専攻

（〒100-0005 東京都中央区日本橋茅場町〇-〇） 準会員（学生）

43

**工修 ㈱建築鉄骨 構造設計部 （〒123-4564 東京都〇〇区△△△町5-2）

***工博 鉄鋼大学工学研究科教授 （〒160-0004 東京都新宿区四谷 3-2-1） 第2種正会員

45

本論文の一部は JSSC No.〇〇, pp.32-39, 2007 に発表

・完成原稿の右上の余白部分に論文もしくは報告であることを明記する。

・完成原稿の右下の余白部分に「頁/頁数」を表記する。

25mm

②・本文は2段組構成とし、1段は**22文字**（英文の場合44文字程度）分とし、文字の大きさは**10~10.5ポイント**（添字は除く）、1頁**45行**として、所定の余白を確保する。但し、機種による若干の相違は許容される。

③・論文第1頁では、

第2行目…論文・報告題目（和文）

【12ポイントの明朝体太字とし、30文字以内とする】

第3行目…論文・報告題目（英文）

【10.5ポイントの太字とし、20words以内とする】

第5行目…著者氏名（和名表記）

【10.5ポイントの明朝体とし、発表者名の頭に〇印を付記】

第6行目…著者氏名（ローマ字表記）

35mm

ページ数

／

25mm

1 第10行目…Abstract , Keywords
100 語 (又は 8 行) 以内の英文
要旨と 5 個以内のキーワード
(和文・英文併記)

5 第21行目…本 文
——— …本文と下記の間仕切線を引く
下段 5 行…アスタリスク (*) の数で著者
名と対応するようにし、協会の
10 **会員資格**、著者所属・住所・お
よび投稿要領の規定に該当す
る既発表論文・報告の発表雑誌
名を見本のように記載。
15 なお、会員資格の区分は、“**第2
種正会員**”、“**準会員**”、“**準会
員 (学生)**”となります。
また、会員資格を持っていな
い方は、所属・住所のみ記入し
てください。

20 ④・見出しはゴシック体太字とし、見出し数字
は、次のように統一し、これ以外の小項目
は出来るだけ避ける。
「章」 : 1., 2., 3. …
「節」 : 1. 1, 1. 2, 1. 3 …
「項」 : 1. 1. 1, 1. 1. 2,
1. 1. 3 …

⑤・「図」、「表」、「写真」、「式」の番号は夫々通
し番号とする。
・写真は印刷紙に焼付けたものを貼付するか、
30 イメージスキャナーで読取ったもの、デジタ
ルカメラで撮影したもの等とする。
・カラー印刷を用いる場合は、完成原稿に同
封する所定の論文送付票に必要事項を記入
し、著者がその実費を負担する。

35 ⑥・図表中の文字の大きさは本文と同じ、10～
10.5 ポイントとする。
⑦・単位はSI 単位を原則とする。
⑧・参考文献は引用順に番号を付けて、著者名・
論文名・誌 (書) 名・巻号・頁・発行年月
40 日 (西暦) の順に本文末に記載し、本文中
には対応する番号を右肩上に付して示す。
⑨・英文による論文の場合も上記要領に準ずる。

45 4. 鋼構造年次論文報告集原稿照査事項点検表
別紙「鋼構造年次論文報告集原稿照査事項点検

表」の冒頭部分には、“3. 執筆要領”の①～⑨に
則しているかどうかを、著者ご自身でチェックし
て頂きます。(点検表のそれ以外の項目についても
チェックは必要です)

5. その他注意事項

・参考文献
著者名：参考文献名, No. (Vol), ページ, 刊行
年月日
(著者名と参考文献名の間はコロン “:” で区
切り、その他はカンマ “,” 区切りとする)

・謝辞
謝辞は結論と参考文献の間に入れる


【参考文献】

- 1) 鉄骨太郎、鋼 構造：鉄骨構造の歴史と展望、
日本鋼構造協会誌, Vol. 15, pp. 24-36,
2000. 12
- 2) Timoshenko, S. P. and Gere, J. M. : Theory of
Elastic Stability, second edition,
McGRAWHILL, pp. 46-50, 1961.
- 3) 日本建築学会：鋼構造限界状態設計規準 (案)・
同解説, pp. 8-12, 1990.
- 4) 土木学会：鋼・コンクリート合成構造の設計
ガイドライン, pp. 200-204, 1989.

25mm

25mm

35mm

ページ数	
------	---